

凍結胚移植と新鮮胚移植の比較

多施設マッチングコホート研究におけるコホート研究
プロゲステロンと母体年齢に対する成功率

Department of Obstetrics and Gynecology, Stanford University School of Medicine, Stanford, California; b Celmatix, Inc., New York, New York; c Reproductive Medical Associates of New York, New York, New York; d Department of Obstetrics and Gynecology, Mount Sinai Icahn School of Medicine, New York, New York; e Department of Obstetrics and Gynecology, University of Connecticut School of Medicine, Farmington, Connecticut; f Center for Advanced Reproductive Sciences, Farmington, Connecticut; g Reproductive Medical Associates of Michigan, Troy, Michigan; and h Shady Grove Fertility Center, Rockville, Maryland

Objective: 凍結胚移植サイクルと新鮮胚移植サイクルにおける着床率および継続妊娠率を比較する。

Design: 後ろ向きの研究

Patient(s): 臨床特性の分布が類似している女性をマッチングアルゴリズムを用いて選択し、合計 2,910 サイクル(1,455 回の新鮮なコホートと 1,455 回の全胚凍結のコホート)の比較を行った。

Main Outcome Measure(s): 着床率と継続妊娠率

Result(s): 着床率および継続妊娠率は、凍結移植コホートのほうが、マッチさせた新鮮移植コホートよりも統計的に有意に高かった。

妊娠継続率は、凍結移植コホートが 52.0% (95%信頼区間 [CI]、49.4~54.6)、新鮮移植コホートが 45.3% (95%CI、42.7~47.9) でオッズ比 (OR) 1.31 (95%CI、1.13-1.51) であった。

層別分析では、全胚凍結の移植後に妊娠が継続するオッズは、プロゲステロン濃度が 1.0ng/mL 以上の 35 歳以上の女性と 35 歳未満の女性では、凍結移植後に妊娠が継続する確率が統計的に有意に高かった。(35 歳% : OR 1.38 [1.11-1.71]、35 歳以上 : OR 1.73 [1.34-2.24])。

プロゲステロン濃度が 1.0ng/mL の女性については、いずれの年齢層においても、継続妊娠の全胚凍結のオッズに統計的に有意な差は認められなかった。

感度分析の結果、(プロゲステロンに関係なく) 母体の年齢が高いほど、凍結サイクルの効果が高くなる傾向が見られた。

プロゲステロン濃度が低いほど、新鮮サイクルでは継続妊娠確率が統計的に有意に高かったが、凍結サイクルでは低かった。

Conclusion(s): 凍結移植サイクルは、新鮮移植サイクルと比較して、進行中の着床率および妊娠率が統計的に有意に高いことと関連している。この効果は、トリガー時のプロゲステロンが 1.0ng/mL 以上のサイクルで最も顕著であり、高齢の患者ではこの効果が強い可能性があります。

(Fertil Steril 2017;108:254-61. 2017 年 米国生殖医学会による)